

高浜市長 所信表明演説(平成 29 年 9 月議会)

平成 29 年 9 月 19 日

【はじめに】

本日、ここに平成 29 年 9 月市議会定例会の開会にあたりまして、3 期目就任のごあいさつと所信の一端を述べさせていただき、議員各位をはじめ、広く市民の皆さまの、ご理解とご協力を賜りたいと存じます。

私は、前の市長選挙におきまして、市民の皆さまをはじめ、各方面からのご推薦と力強いご支援を賜り、引き続き市長として、今後 4 年間の市政を任せていただくこととなりました。改めてその責任の重さを痛感するとともに、市民の皆様の大きな期待と信頼に応えられるよう、全力を傾注してゆく所存でございます。

私は市長として二期 8 年間、わがまち高浜の今をアシタにつなぐという目的に向けて、未来の世代のために何をなすべきか。10 年、20 年先の長期経営の視点に立ち、持続可能な高浜市のために何ができるか、何をしなければならないかを考え、厳しい課題に対しましても、無理だと諦めるのではなく、そのうちやると先延ばしするのではなく、常に未来を見据え、市民の皆さまとともに理想とするまちづくりに全力で取り組んでまいりました。

そして、ようやく高浜市の今をアシタにつないでいくための「タカハマの根っこ」が大地に定着しつつあると感じております。

とりわけ、2 期目の 4 年間では、全国的な課題として注目をされている公共施設の老朽化問題について本格的に着手しました。税込や人口推移を分析した上で、いよいよ高浜市が将来にわたり持続できるための手立てを具体的に講じなければならない岐路に立ったからです。まずは、市民の方や専門家の方、議員からご意見をいただき、高浜市公共施設総合管理計画を策定し、防災拠点となり得るよう庁舎を 20 年間のリースとして建てかえを行いました。

また、将来を見据えた財政運営のために、小学校へ機能を複合化・集約化することで、施設の総量をコンパクトにしながら、子どもから高齢者まで、小学校区の住民が集う地域活動拠点とする方向性を打ち出しました。モデル事業となる高浜小学校等整備事業に取り組む中では、本市初の住民投票が行われるなど、市政運営の大きな転換期となる決断をしてきた 4 年間でもございました。

こうした試練を乗り越えるには、私一人の力ではできません。これまで、市民と行

政の距離が近いといった、高浜市の強みを生かし、市民4万7,500人の大家族が思いやり、支え合いの精神を持って、協働のまちづくりを地道にそして着実に前進させてきましたが、市民の皆様の深いご理解と力強いご支援、そして、力を合わせて前に進むことこそが、未来を切り拓く大きな推進力を生み出すと改めて確信いたしました。

これから臨む4年間においても、時代とともに発生する新たな問題にも果敢に立ち向かい解決をする。目先にとられることなく、こんな未来にするためには、「今、なにをすべきか」を常に考え、市政運営をしていく。未来投資を続け、『アシタの高浜』を目指し、市民の皆さんとともに進めていくことこそが、まさに「アシタのチカラ」だと確信しています。

市民の皆さんとの対話を重視し、市民の皆さんとの協働を意識し、市民のチカラ・地域のチカラが活かされた市政を心掛けて「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」を構築し、そして次の時代につないでいくための未来への投資として、5つの政策を進めてまいります。

【3期目の取り組みについて】

はじめに「健全財政と市民サービス向上」に向けた未来投資でございます。

健全財政を維持しつつ市民サービスを低下させることなく、より向上させていくためには、将来を見据えた財政計画をもとに、公共施設の管理計画を進め、限りある財源を将来につなげていくことが大切であります。

歳入確保の面では、すでに整備が進んでおります豊田町の工業用地の創出やさらなる企業誘致に向けた工業用地の創出として小池町の整備を進め、民間企業の設備投資の促進や雇用機会の拡大を図るなど、産業振興等を通じた市税収入等の増収に取り組んでまいりますとともに、公共施設跡地やふるさと納税制度など今ある地域の資源を最大限に活用し、新たな財源の確保に取り組んでまいります。

歳出削減の面では、長期財政計画に記載している見直し事業を確実に実施するとともに、すべての事業について、前例踏襲や現状維持という発想を排除し、ゼロベースでの点検・見直しを行い、投資に対する効果を明確にすることで市民に対してもわかりやすく説明できるように資料を工夫するなど、常に点検・確認といったPDCAサイクルを回し、事業の見直しと重点化を行いながら、限りある財源の効率的な活用に努めるとともに、庁舎内のICT化や行政内部事務の省力化と省資源化による歳出の削減に取り組んでまいります。

次に、「子育てしやすい心豊かなまち」に向けた未来投資でございます。

わたしたちの高浜市を将来へとつなぎ、発展させていくのはこれから高浜市を支え

ていく子どもたちです。子どもたちが夢と希望を持って、未来に力強く羽ばたいていけるような環境を整えていくことが「アシタの高浜」へとつながってまいります。

高浜の子どもたちが「高浜市の良さ」や「高浜市民の一員である」ことを感じながら成長していくため、まちの資源を活かし、地域と協働して実践している「高浜カリキュラム」に、アクティブラーニングを取り入れ、主体的・対話的に深く学ぶと同時にコミュニケーション能力を育むとともに、学習指導要領の改訂により必修化される英語教育やプログラミング教育においても高浜ならではの特色を活かした教育に取り組んでいくため、教育基金創設に向けて教育委員会と協議を開始し、12年間の学びや育ちをつなげるという目標に向かい、これまで以上に教育政策を強化してまいります。

そして、子どもから高齢者まで、小学校区の住民が自然に集う新たな交流の場として期待される新高浜小学校をモデルとして、顔が見える地域づくりに取り組んでまいります。

また、子育てだけでなく子育てを支えていくため、働きながら、安心して子どもを産み育てることができる環境を整えていくことが大切であります。認定こども園化や定員拡大など、子育てを総合的に応援する体制を強化し、待機児童ゼロの実現を目指してまいります。

また、出産後間もない時期の赤ちゃんの健診のほか、お母さんのこころとからだの健康状態を把握するため、産後無料検診を実施し、安心な子育て環境を整えてまいります。

次に、「活気と魅力があふれるまち」に向けた未来投資でございます。

子どもから高齢者まで、誰もがより良い人生・充実した人生を送ることができるよう、個人あるいは仲間とともに楽しく「学習したい」「活動したい」という想いを応援するため策定いたしました「生涯学習基本構想」を、地域資源でありますかわら美術館の将来の姿や図書館のあり方も市民の皆さまと一緒に考えながら、新たな生涯学習基本構想へとリニューアルしてまいります。

また、愛知県が東京オリンピック開幕前の2019年秋までに中部国際空港島に整備を予定しております国際展示場等を活用し、三州瓦の海外への販路拡大や伝産指定（伝統的工芸品の指定）の支援を進めてまいりますとともに、高浜市の風土に適した特産野菜として市民の皆さんと考え作り始め、現在では県外からも問い合わせがあるほど人気となりましたジャンボ落花生の作付け拡大や地域特産品のブランド化を進めるなど、農業振興も進めてまいります。

さらに年々増加を続け、平成29年9月1日時点では総人口の約6.7%を占める外国

人の方々に対しましても暮らしやすい環境を整備していくため、インターネットなどを活用した多言語通訳システムを整え、グローバル社会への対応を進めてまいります。

次に、「安全で安心なまち」に向けた未来投資でございます。

安全・安心の確保は市民生活にとって何よりも優先すべきものであります。近年頻発する集中豪雨やこれまでに日本各地で大きな被害をもたらしてきた地震などの大規模災害に備え、「自助」「共助」「公助」の考えに基づく役割分担と相互連携のさらなる強化を図っていく中で、地域や企業と連携した災害時要支援者等への対策を強化するとともに、インターネット等を活用した防犯・防災システムを研究し、地域の防災力・防犯力強化を図ってまいります。

また、全国的な課題として注目され、高浜市においても徐々に増え始めてまいりました空き家問題に対しましても、課題としてだけではなく地域の資源として捉え、その利活用について検討してまいります。

次に、「みんなが助け合う笑顔あふれるまち」に向けた未来投資でございます。

高浜市に暮らすだれもがその人らしくいつも笑顔でいられるよう、福祉・医療施策では、相談支援体制の充実と生涯現役のまちづくり、地域包括ケアシステムの構築を進めてまいります。

相談支援体制の充実では、発達障害の専門教育を実施し、現場で活躍できる人材育成を進めるとともに、認知症の医療や介護の専門的知識及び経験を有する認知症地域支援推進員を配置し、認知症の理解促進や認知症の方や家族等への相談支援体制を強化してまいります。

また、超高齢化社会を迎えるにあたり、地域ではますます高齢者が増加をしてまいります。そうした中、高齢者の方々には豊富な経験や知識、技能の蓄積があり、現役を引退しても、その力は社会の大きな財産であります。生涯現役のまちづくりでは、高齢者が年齢を重ねても生きがいを実感しながら社会で活躍できるよう、これまで健康自生地でサービスを受ける側であった方が、その知識や技能を活かし健康自生地を担う側へと移行するなど、高齢者がいきいきと活躍できる場の創出につながるよう進めてまいります。

さらに「2025年問題」の言葉に象徴されるように、いわゆる団塊の世代の方々が後期高齢者に達する時期には、医療・介護の需要は確実に増えていく一方で、家族の介護力が低下してまいります。とりわけ医療については、地域ニーズの状況に加え、将来的変動、人口の状況を踏まえた上で、その実情に応じた医療体制を整えていく必要があります。地域の中で医療と介護が連携し、在宅生活を支えていくため、医療法人豊田会と連携し、市内医療関係機関や介護施設と、市民の医療と介護を支える地域

包括ケアシステムを構築してまいります。

ただいま申し上げました私のまちづくりの根幹は、『私のまち高浜市は』と一人称で語れるようなまちにしたいという想い」でございます。たかはまの未来を自分ごととして語り合い、地域や大人とともに、アシタの高浜を担う若者が“まち”とともに成長していく場として「わかもの未来会議」を創設し、ともに声を出し合い、ともに考え、助け合い、仲間をつくり、知恵を出し合う。そして方向が決まったら気持ちを一つにして汗を流し合う。私は、理想とするまちづくりを、将来を担う若者をはじめ、市民の皆様と力を合わせて進めてまいりたいと考えています。

【おわりに】

以上、3期目の市政運営にあたり、私の所信の一端を申し述べさせていただきましたが、これらの実行にあたっては議員各位、並びに市民の皆さまのより一層のご支援・ご協力なくしては、成し得ることはできません。今後ともより一層のご指導・ご鞭撻を賜ることをお願い申し上げ、所信表明とさせていただきます。